

〇〇中学校第1～3学年 美術科 学習指導案

1. 題材名 「岡本太郎と縄文土器」

2. 題材について

(1) 題材設定の理由

生徒たちは、小学生の時から社会科の歴史分野において縄文土器について学習し、また、多くの中学、高校の歴史教科書の最初に縄文土器の写真が掲載されている。そのため、認知度は高いが縄文土器そのものに対しての興味関心は低い。縄文に限らなければ、土器は日本のあらゆる地域で発掘され、最寄りの資料館や博物館で気軽に見ることができる身近なものである。そこで、日本最古の芸術品である縄文土器に目を向け、その美しさを味わい、あらためて感じ取ってもらいたい。

そのために、縄文土器の魅力を発見し、その後の造形作品にも影響を与えられたという岡本太郎を取り上げたい。おりしも、今年の7月にはメキシコで35年ぶりに発見された岡本太郎の壁画、「明日の神話」が修復を完了し、公開の運びとなった。世間では再び“岡本太郎ブーム”がおこり、テレビで特集番組が何本か放映されたため、周囲の生徒の間からも「岡本太郎」の名前が飛び出し、「興味を持った、もっと知りたい」という声が聞かれた。

岡本太郎のエネルギッシュな作品や、その幅広いフィールドワークを知ることは、今後の創造活動に刺激を与え、参考になると考え「岡本太郎美術館」の協力を得ながら本題材を設定した。

また、この鑑賞授業を導入部分に置き、1年生では粘土を使った立体作品。2年生では印刻、3年生は素材を工夫した時計の制作を行う。

(2) 目標

○日本古来の美術文化に対する関心を高め、その造形美のよさを感じ取ろうとする。

【美術への関心・意欲・態度】

○岡本太郎の作品に対する興味関心を高め、意欲的に鑑賞しようとする。

【美術への関心・意欲・態度】

○芸術家の多様な表現方法について知り、造形的な面だけでなく作者の心情についても理解を深める。【鑑賞の能力】

○鑑賞した作品についての感想を、自分なりの視点をもとに言葉で表現する。【鑑賞の能力】

○粘土を使い、自分の心の中にある思いを楽しみながら工夫して表現する。【創造的な能力】(1年生のみ)

(3) 指導計画 (1年生のみ2時間扱い)

1	◇縄文土器のよさについて考える ◇縄文土器と岡本太郎の関わりを知る ◇岡本太郎の作品やフィールドワークについて知る。 作品カード鑑賞、VTR鑑賞(15分) ◇感じ取ったことをワークシートにまとめる
2	◇岡本太郎についての感想を述べ合う ◇“岡本太郎になったつもり”で粘土を使ってイメージトレーニング 「情熱」「孤独」 ◇相互鑑賞 ◇授業のまとめ

3. 準備

(1) 指導者：縄文土器のレプリカ(社会科資料室) 岡本太郎VTR(岡本太郎美術館)、ワークシート

作品プリント(岡本太郎美術館)

・写真「縄文土器」数点「土偶」

・絵画「痛ましき腕」「夜」「重工業」「森の掟」

・立体「太陽の塔」「樹人」「誇り」「動物」「午後の陽」

「座ることを拒否するいす」「若い時計台」「顔のグラス」「ティーセット」

(2) 生徒：教科書、資料集、美術科ファイル、筆記用具

4. 異校種における関連した題材との関連や系統性について

	小学校	中学校	高等学校
共通の題材	「岡本太郎の作品と縄文土器」 キーワード：岡本太郎・縄文土器 共通鑑賞作品：縄文土器 岡本太郎作「太陽の塔」他数点		
ねらい	岡本太郎の作品に触れ、よさや面白さを感じ取り、自分の作品に生かす。	縄文土器に影響を受けた岡本太郎の作品や創造活動に対する姿勢から、表現の可能性や創造することの喜びを感じ取る。	岡本太郎の作品は作家自身が火焰式土器の造形美に強く影響された結果、制作されたものであることを理解する。
アプローチの仕方	岡本太郎の作品を紹介し、作品に親しませ、創作活動につなげる。	岡本太郎美術館編集のVTR や作品カードを使った鑑賞。	岡本太郎の作品や評論などから作家の人間性を学び、作品制作に至った過程を理解する。
主となる鑑賞作品	・縄文土器の写真 ・岡本太郎の作品「午後の日」 ・「座ることを拒否するいす」	・縄文土器のレプリカ ・岡本太郎撮影の「縄文土器」 ・「太陽の塔」「明日の神話」	・岡本太郎撮影の「縄文土器」 ・火焰土器のレプリカ
活動内容	①岡本太郎のことを知り、作品を鑑賞する。 ②粘土で自分の思いを形に表す。 ③友達の作品を鑑賞し、よさを伝え合う。	①縄文土器の写真を見比べ、岡本太郎の視点から縄文土器のよさを探る。 ②岡本太郎のVTR を鑑賞し、作品やフィールドワークについて知る。	①学習プリントを活用した調べ学習を行う。 ②調べ学習の内容を発表する。 ③調べた内容を元にして岡本作品の造形本質を理解する。
対応する教科書の内容	開隆堂 図画工作 5・6 下 「粘土の板づくりから」 「芸術家の心にふれて」	開隆堂 美術 1 「感動・発見美術館」 開隆堂 美術 2・3 上 「芸術家は語る」 開隆堂 美術 2・3 下 「美術の流れ」	特になし

5. 学習の展開

	◇主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	◇縄文土器のレプリカや教科書の写真を見ながら、土器について思ったことを発表し合う。 ◇縄文土器に強くひかれた人物を考える。 ヒント①壁画「明日の神話」 ②「太陽の塔」 ③「芸術は爆発だ！！」	○縄文土器を初めて知った時の気持ちを振り返らせる。 ☆積極的に発表に参加している。 ○ヒントを与えながら、生徒から答えが出るように導く。 ☆興味を持って考えられている。 
	◇岡本太郎の縄文土器に対する思いと縄文土器の魅力について考える。 ・岡本太郎撮影の土器の写真を見る。 ・縄文土器との出会いについて書かれた文章を読む。 ・立体作品「縄文人」	○教科書に掲載されている写真と、太郎自身が撮った縄文土器の写真を見比べて太郎の視点に気付かせる。 ☆太郎の思いを知り、改めて縄文土器のよさや美しさについて考える。
	◇岡本太郎について知る。	○色彩の鮮やかさ、ユーモラスな形など表面上の面

展 開	・VTR視聴（15分） 「岡本太郎の生い立ち 作品とフィールドワーク」 	白さだけでなく、制作時の心情などを感じ取れるように、岡本太郎の残した言葉も紹介する。 *「今日の芸術はうまくあってはならない。きれいであってはならない。こちよくあってはならない。」 *「人間的に生きることに専門家がないと同じように、すべての人が、創造者として、芸術革命に参加するのです。」 ○じっくりと作品を鑑賞できるように黒板に作品プリント（岡本太郎美術館）を掲示する。 ○教師自身が岡本太郎美術館と記念館を見てきた感想を述べ、作者を身近に感じられるようにする。 ☆内容を理解しようと集中して鑑賞している。
ま と め	◇プリントに感想を記入する。 ・特に印象に残った作品 （何点でもよい） ・岡本太郎の生き方 （印象に残った言葉など）	○作品を肯定的に受け入れられない生徒もいるので、気に入った作品に限らず印象に残ったものをあげさせる。 ☆自分なりの見方で、感じ取ったことを表現する。
	第2時 1年生のみ	
導 入	◇前時の授業を振り返る。 感想発表	○人に何と言われようと、自分の思いをのびのびと表現した太郎の姿勢を確認する。
展 開	◇岡本太郎になったつもりで表現する。 ・粘土を使って心を形に表現する。 ①情熱   ②孤独   	○抽象表現を苦手とする生徒も多いので、自由に形を変えられる粘土を用いて、気軽に楽しみながら表現ができるようにする。 ○一つの作品にあてる時間は5分程度とする。 ○対照的なテーマを設定し、表現の幅を広げるようにする。 ☆想像力を働かせて意欲的に制作に取り組む。 ☆自分の表現に自信をもってつくる。
ま と め	◇友達の商品を見る。 ◇本時を振り返って感想をまとめる。 ◇片づけ	○全員の作品を見られるよう、机の上に作品を残したまま他の作品を見て回る。 ☆友達の商品の多様な表現とよさに気付く。 ○自己評価カードに記入。 ☆班員と協力し合って片づけられたか。

6. 生徒の感想

☆岡本太郎の目に映った縄文土器

- ・縄文土器には色々な種類があって、きれいと言えるものではないと思うけど型にはめられていないところが良かったんだと思う。
- ・縄文土器は、その当時太郎さんが最も望んでいた「自由」と重なって、土器が自分のように思えたから土器に一瞬にして惹かれたのだと思う。
- ・決まった形のない、燃えるような土の力強さに惹かれたのだと思う。
- ・きまった形のわくに押し込まれず、自由自在に形を変化させ、その原料は土のみであるということが良かったのだと思う。

☆“岡本太郎”について思ったこと

- ・常識に縛られず、自分の生きたいように生き、描きたいように描き、無駄がない生き方だと思った。
- ・岡本さんにとっては全てが芸術なのかな。家具や家、大地や空も全てが芸術。そんな気がした。
- ・自分の身の回りにあるもの全てを作品にしてしまうことがすごいと思いました。ビデオを見て、岡本太郎さんの芸術に対する強い気持ちを感じることができました。自分の信念を貫き通すなんて私達にはできないことだと思います。
- ・岡本太郎さんの生きざまは作品に描かれていると思います。作品が楽しそうに見えるのは人間が大好きという気持ちがあったからだだと思います。
- ・自分の思いを貫こうとしても結局人の眼を気にしてしまうけど、岡本太郎は大人の言っていることが間違っていると思えば絶対に考えを変えないなんて本当にすごい。
- ・岡本太郎の絵を見ると、自分そのものを描いているような感じがします。
- ・岡本太郎は何歳になっても無邪気で子供みたいな発想を持っていて、誰も真似できないと思った。
- ・美学的なことを考えず、自分の感じたことをありのままに表現しようとした、とても純粋な人。

9. 成果と課題

教科書を基にした鑑賞指導で、“地域の美術館、博物館、資料館、作家等を鑑賞する題材”に関して、どう取り組んでよいのか最初は戸惑いました。そうしながら苦し紛れに何とか設定したのがこの「岡本太郎と縄文土器」でした。題材が決定したものの、肝心の岡本太郎も縄文土器についてもほとんど知識がないことに気付き、あわてて資料を集め始めました。「岡本太郎」も「縄文土器」も今まで特に興味を持ったことはなく、このような機会がなければこれからもずっと深く知ることはなかったと思われたのが、気付くとすっかり岡本太郎に魅了されていたのです。岡本太郎美術館や記念館を訪ねたときは感動すら覚え、手探りで始めた題材研究も楽しんで行うことができました。

結果として、私にとって初めての美術館と連携した鑑賞授業となったわけですが、美術館では学校教材として小中学校向けに編集した VTR やパンフレット、実際の作品の色にきわめて近い作品カードを貸していただきました。生前の岡本太郎の活動を15分という短時間にまとめた VTR は大変分かりやすく、多くの生徒が興味深く見ており、美術館に行ってみたいという声が沢山聞かれました。何と言っても“岡本太郎”の強烈な人物像。それは多くの生徒を惹きつける魅力にあふれるものでした。実践授業の後は校内でもちょっとした岡本太郎ブームがおこり、彼に関する新聞記事やニュースなどで耳にしたことや本で読んだ事柄などを報告に来たり、美術室に設けた岡本太郎の鑑賞コーナーに熱心に見入る姿が見られました。このような現象は小学校の検証授業の後にも見られたそうです。

授業の展開としては、美術館が提供してくれた教材に頼りすぎであったと思い、もっと効果的な使い方や違った方法があったのではないかと考えてなりません。さらに資料を厳選し、生徒が活動

しながら学べる体感型の鑑賞を考えていきたいと思います。

また、今まで自分の好みや、芸術家の知名度が高く資料が手元にあったということで鑑賞題材を決めることが多く、鑑賞の授業はワンパターンになりがちでした。しかし今回の研修を期に、これからは自分自身も広い視野で興味関心を持ち、積極的に題材開発を行い、楽しく充実した鑑賞授業を展開していきたいと思います。

10. 研修から得たこと

会場校研修を含む計5回の研修はとても有意義なものとなりました。普段異校種の先生方と接する機会はほとんどなく、同じ教科でも高校の教科書を見るのも初めてでした。研修を進める中で小学校のきめ細かで楽しく工夫された授業に驚き、高校の専門性の高い内容、高い技能に感心しました。会場校研修で授業をしていただいた田中先生の実践は特に充実しており、当日の風神雷神図屏風の鑑賞はもちろん、近代美術館のモネのレプリカ作品を使っの授業など、大変興味深い事例を紹介いただきました。少ない授業時間でも常に新しいものを取り入れ、研究を重ねながら質の高い実践をされている姿に感動し、刺激を受けました。

センターの指導主事の先生方のご指導の元、本研修に参加することであらためて授業を作り上げていく楽しさを味わうことができました。また、研修中は授業研究だけでなく、校種を超えて沢山の先生方と学校の様子や悩みを話し合う機会もあり、色々な面で勉強になったと思います。これら研修で得たことを今後の実践に生かし、さらに努力をしていきたいと思います。